

モザイク病 ^{びょう} その1

病原菌名 *Broad bean wilt virus 2 (BBWV-2)*、*Cucumber mosaic virus (CMV)*、*Watermelon mosaic virus (WMV)*、*Pea seed-borne mosaic virus (PSbMV)*など

発生条件

病原ウイルスの種類によって病徴は異なるが、その違いは明瞭でない場合が多い。病原ウイルスはアブラムシによって伝搬されるものが多い。

BBWV(ソラマメウルトウイルス)によるモザイク病



茎に黒褐色の短
いえそ条斑を、莢
に黒褐色のえそ
を生じ、やや萎縮
する。一般にほ場
で散見される。

CMV(キュウリモザイクウイルス)とWMV(カボ
チャモザイクウイルス)の重複感染



CMVとWMVの重複
感染により茎や葉に
灰白色のえそを生じ、
枯死に至る激しい症
状が発生する。ほ場
全体が壊滅的な被害
となる場合がある。

モザイク病 ^{びょう} その2

PsbMV(エンドウ種子伝染モザイクウイルス)によるモザイク病



莢では上方への反りや細莢などの奇形がみられるほか、表面の白い粉(ブルーム)が無くなり、つやが出てくる。葉は退緑し、小葉や托葉が裏面に向かって巻き込む。
種子伝染のほか、アブラムシによって媒介される。
宿主範囲はエンドウ、ソラマメ、スイートピー、レンゲなど数種のマメ科植物。マメ科でもインゲン、ダイズ等感染しないものも多い。